

令和5年度 第(2)回議事録

(A) グループ年間テーマ: センサー解除の評価と取り組みについて

令和 5 年 9 月 11 日提出

開催日	令和 5 年 9 月 9 日 (土)		
開催場所	九州大学 医学部 百年講堂 中ホール3		
出席者 (敬称略)	中島美子	大場瑞恵	石井喬子
	三浦紀子	宮下夏実	田中美代子
記録者名	田中美代子		
テーマ	センサー解除に向けた評価表を作成・使用した状況を情報共有する。		
結論	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの病院で使用している評価表を基に各自で評価表を作成。 ・センサーを外せそうな患者をピックアップし 7/1 ~ 7/31 の期間で使用。 <p>17名中6名は言評後センサーを外し問題なかったが1名は転倒し再度センサーを設置した。 良い点) 行動把握や異常の早期発見ができる。 問題点) 評価表が周知せず未記入だったり受け入れが悪いスタッフがいいた。</p>		
決定事項	<p>次回: 評価表を活用してもらうように職員へ働きかける。 評価表をカンファレンスで活用させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みを行ったことでスタッフのセンサー解除に対する意識が向上した。 ・日中から評価し夜間も良ければ終了にする等段階的にセンサー解除している所が多かった。 ・センサーを使っても転倒が減らないこともあるが患者の把握やケアの向上に有効で 		
備考	<p>トレ講習や離床のタイミングへの活用につなげている所もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センサーが頻回に鳴りすぎると毎回訪室はなかったし患者がセンサーをまたぎ危険なところがあった。 ・センサーが外れることで患者の精神的ストレスが軽減する。 ・センサー使用数が減少すればナースコールが減りスタッフの負担軽減となる。 		
次回討論項目	R5年 12月9日(土) 13:30 ~ 16:00		

抑制廃止とケアの質を高める会 事務局

E-Mail: jimukyoku@famcf.jp Fax: 092(691)3961